

令和8年度小値賀町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

小値賀町での経営耕地面積に占める水田の割合は35.3%（耕地面積249ha、うち水田88ha、(R7 農林業センサスより）と全国の55.6%と比べ低い、離島という条件不利地域であることから、基盤整備率においても、約64.5%と全国の69%と比較すると低く、さらに、米の1戸当たりの作付面積においては、全国平均が1.80haに対し、0.54haと零細農家が多いなど、小値賀町の水田農業は、生産並びに経営基盤ともに低い状況にある。

米作付農家は、約162戸（R7 水稲作付調査より）と販売農家より多く、自給的農家を含め、幅広い農業者が作付けしている。一方、土地利用型作物主体の経営を行う認定農業者は皆無であり、他部門が経営の主体となっていることが特徴となっている。集落営農組織においては、特定農業法人、農作業受託組織、機械利用組合があり、特定農業団体の半数以上が20ha以下の組織と小規模経営が多く、スケールメリットを活かした生産・経営の効率化が図られていないのが実態である。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農業従事者の高齢化や担い手不足の課題を解消する必要がある、地域の特性を踏まえ、より省力的な生産が可能かつ病害虫リスクも比較的低いなど、将来にわたり定着化・本作化につながる振興拡大作物を総合的に判断して選定していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

地域の特性に応じた作物の本作化や農地の集積・集約化を図るために、地域関係者と調整しながら必要な取組を進めることができるよう、関係機関・団体が連携して水田の作付状況等を調査し、水稲と転換作物とのローテーションの推進、畑地化に係る支援や情報提供を行う。なお、取組を進めるにあたっては、地域計画により描かれた将来像や、担い手の農業経営改善計画など、効率化な土地利用に配慮する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

一等米率や収量向上のため、他地域と異なる「コシヒカリ」の栽培方法に取り組み、省力化や低コスト技術や集落営農の組織化等により生産の効率化を推進する。生産目標面積の減少に対応した米農家の収益確保を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米（専用品種）においては、交雑やコンタミ防止などの課題が残されているため、関係機関と受入体制等の検討を進めていく。

イ WCS 用稲

WCS 用稲は、引き続き耕畜連携の取組を進める。

(3) 麦、大豆、飼料作物

飼料作物について畜産農家の増頭や飼料価格高騰による自給飼料増産のニーズに沿った面積拡大による生産コストの低減を推進するため、二毛作による水田の有効活用並びに、わら利用、水田放牧、資源循環といった耕畜連携の取組みを推進する。

麦、大豆については産地交付金を活用し二毛作を拡大する。

(4) 高収益作物

米に代わる作付品目、米農家の経営品目として、地域農業再生協議会が選定した地域振興品目について、産地交付金を活用し推進する。特に、アスパラガス・ブロッコリー・トマト・ミニトマト・メロン・実えんどうにおいては産地確立や集落営農の収益品目として面積の拡大を図り、水田フル活用を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	74.2	0	75.2	0	75.0	0
備蓄米	0	0	0	0	0	0
飼料用米	0	0	0	0	0	0
米粉用米	0	0	0	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0	0	0	0
WCS用稲	12.6	0	12.1	0	13.8	0
加工用米	0	0	0	0	0	0
麦	0	0	0	0	0	0
大豆	0	0	0	0	0	0
飼料作物	43.7	30.9	43.7	30.9	55.0	39.0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば	0	0	0	0	0	0
なたね	0	0	0	0	0	0
地力増進作物	0	0	0	0	0	0
高収益作物	0.4	0	0.6	0	0.7	0
・野菜	0.4	0	0.6	0	0.5	0
・花き・花木	0	0	0	0	0	0
・果樹	0	0	0	0	0	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0.2	0
その他	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
畑地化	0	0	0	0	0	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	地域重点振興作物 （アスパラガス・ブロッコ リー・トマト・ミニトマト・実 えんどう・メロン）	地域重点振興作物 （野菜）助成（基幹）	作付面積の拡大	（R7年度） 0.39ha	（R8年度） 0.53ha
2	地域重点振興作物以外の高 収益作物 （別表一覧のとおり）	地域振興作物助成 （基幹）	作付面積の拡大	（R7年度） 0.06ha	（R8年度） 0.2ha
3	戦略作物（麦、大豆、飼料 作物）、そば、なたね	戦略作物、そば、なた ねへの支援（二毛作）	作付面積の拡大	（R7年度） 29.7ha	（R8年度） 39.0ha
			水田利用率	（R7年度） 60.5%	（R8年度） 68.0%

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：

協議会名：

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	地域重点振興作物(野菜)助成(基幹)	1	50,000	地域重点振興作物(アスパラガス・ブロッコリー・トマト・ミニトマト・実えんどう・メロン)	作付面積に応じて支援
2	地域振興作物助成(基幹)	1	10,000	地域重点振興作物以外の高収益作物(別表一覧のとおり)	作付面積に応じて支援
3	戦略作物、そば、なたねへの支援(二毛作)	2	13,000	戦略作物(麦、大豆、飼料作物)、そば、なたね	作付面積に応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

(別表1)

対象となる高収益作物一覧表

いちご	きぬさや
レタス	にがうり
かぼちゃ	スナップエンドウ
にんじん	キャベツ
ばれいしょ	セロリ
いんげん	とうがん
かんしょ	しょうが
サトイモ	オクラ
すいか	ごぼう
大根	しろうり
きゅうり	はくさい
未成熟とうもろこし	れんこん
たまねぎ	えだまめ
そらまめ	かぶ
ししとう	にんにく
なす	しそ
にら	らっきょう
ねぎ	やまいも
なばな	スイートコーン
ピーマン	さやえんどう
ほうれんそう	てんさい
ハーブ類	こんにゃく
	落花生
	大麦若葉
	種苗類

(別表2)

対象となる飼料作物一覧表

イタリアンライグラス
エンバク
ライムギ
オオムギ
飼料用カブ